

第17回 CUD勉強会 浅田一憲氏講演
「せっかく生まれてきたのだから誰かに喜んでもらえるようなことをやりたい」
アンケート回答

実施日: 2026年03月14日(土) 14:00~16:00 (オンライン開催)

主催: NPO人にやさしい色づかいをすすめる会

参加人数: 57人

webアンケート: 2026/03/14~03/23実施, 回答者45人(回答率 79%)

以下にアンケート項目の一つである講演会の感想(自由記述)を掲載します。

Q8.勉強会についてどのように感じましたか。ぜひ感想をお聞かせください。

◎用事が終わらず最初 15 分ほど聞き逃してしまったのですが、知らなかったことがたくさんあり、非常に勉強になりました。学校図書館で働いているのですが、現場で生かしていければと思います。

◎普段分からない視力障害のことがよくわかり有意義でした。

◎色覚だけでなく、「見え方」について多方向からのお話が勉強になりました。ゴッホやモネのお話も実際の画像比較でわかりやすく、面白かったです。

最近視力が低下してきており、スマホの画像がくすんで見える気がして、つい彩度を上げて修正しがちなのも、自分の見え方の問題なのかもと気づかせてもらいました。そういえば、LINE もブラックバックにしています…「明るく大きく」アプリが気になりました。

こどもの頃見ていた澄んだ青空が見たいと思っていました(笑)

質疑応答の中で、「そんなものなくても誰もが生活できる世界になればいい」とおっしゃっていたのが、この会の本質を表しているなど実感しました。

◎オンラインは多くの方が参加できるので、機会が増えるとよいなと思います

◎浅田さんの話しはお聞きするのは、旭川で開催された日本ロービジョン学会の時と今回で 2 回目でしたが、今日は時間がたっぷりあり、ゆっくりとお話いただき、大変分かりやすく勉強になりました。

◎開発秘話、知らなかったアプリと活用、「困っている人のために何ができるか!」という思考をインテリアコーディネーターとして出来ることを改めて考察する機会となりました。

知識だけでなく志にさへ刺激と勉強になりました。ありがとうございました。

◎vision の製品が発展し、いろめがね機能やもっと明るく大きく機能など視覚支援機能が付加されて、困っている人、そうでない人たちにとって素敵なツールになるんだろうな。とワクワク感が止まりませんでした^^

◎非常に有意義でした。

◎2 時間は少し長かったかな、でも退屈はしませんでした。それぞれのアプリの「こんな使い方」がありますのような、開発者ならではの裏話があれば、聴きたかったです。

◎D 型色覚の私には、ゴッホ色弱説は、やや、疑問です。

NHK の「フクチッチ」は、バリエーションを肯定的に放送しているので、D 型の私には、大いに不満です。対立意見があることを紹介すべきだと思いました。

◎色覚特性自体について知ることもですが、関連する取り組みやさまざまなツール、色覚特性のある方のご活躍など伺えて、さまざまなことを知ることができて嬉しいです。

◎色のめがね、色のシミュレータなどのアプリの開発だけでなく、幅広く活躍されている浅田さんのお話を直接伺うことができてよかったです。

◎ゴッホやモネのお話は大変興味深かった。色々な開発に数式を用いるということや多方面でのご活躍に驚いた。色のシミュレーション以外の「明るく大きく」も早速試してみたい。無料で公開されたことがどれだけ世の中の常識の UP に繋がったか計り知れない。プロセスなど難しい内容ではありながら、わかりやすくお話下さりとても有意義な講演でした。機会が又あれば…と強く思いました。ありがとうございました。

◎色覚、弱視の方々に対して研究や活動して下さる方達に感謝の気持ちでいっぱいになりました。多くの方

に見え方についての知識が広まれば良いと思います。

◎貴重な時間でした

◎世の中に貢献されている方の考え方はとても興味深かったです。

色覚に興味を持たれたキッカケから、アプリへの熱い情熱に心打たれました。

おかげで世の中で求められるアプリが出来上がり、私たち C 型が色弱の方々の見え方に少しでも理解が近づけたことに本当に感謝です。

◎「色のめがね」から始まった「色のシミュレータ」誕生の背景と、「明るく大きく」を含めたこれら 3 つのアプリの真価を詳しく知ることができて、たいへん勉強になりました。なかでもあまり使っていなかった「明るく大きく」の話は記憶に残りました。弱視の子どもたちが物の形状をしっかりと見る視覚体験を積んでおくと、後々視力が落ちていっても記憶から形状を脳内で再現し、認識できる。「明るく大きく」はそうした視覚体験を可能にするという。なるほどと思いました。

コルクアートプロジェクトも刺激になりました。手作りの作品を売却してお金を稼ぎ、それを支援活動の資金にするという発想がすばらしい。このように、多くの人に伝えたいエピソード満載のレクチャーでした。

◎大変 勉強になりました。もっと詳しいお話をお聞きしたいと思いました。

◎色弱について、シミュレーションについての講演と想っていたが、講師のトータルな仕事内容、仕事のやり方、仕事にとらわれない興味内容等の紹介はとても興味深かった。刺激になった。

◎「色のめがね」「色のシミュレーター」だけでなく、幅広い話を聞くことができ、大変有意義でした。

あまり専門的になり過ぎず、かつ基本的な原理を押さえてわかりやすく説明していただけたと思います。

「困っている人の為に作ったアプリが、困っていない人の役にも立った」との感想は、まさしく CUD と同じだと感じました。

私も「やりたいと思ったことをやる」「わからないことをわからないままにしない」を心掛けたいと思います。(なかなか難しいですが)

◎とても良かったです。講師の人生観や背景が感じられるお話がとても興味深く、学びの多い時間でした。

一方で、ミュート管理や画面共有中の書き込みなどで、少し気になる場面もありました。その点が整うと、より集中して内容を楽しめるイベントになると思いました。

◎都合で 3 時までしか聞けなかったが、日ごろ使っている色のめがね、色のシミュレーターの仕組みがあらためて分かってよかった。伊賀さんが当初「このアプリ機能していない」と言ったという話が、自分の経験と同じで面白かった。

◎団体設立 10 周年記念にふさわしい勉強会だったと感じました。

◎CUDO 以外にも色覚関連活動団体があることを知った。講師の活動履歴やアプリ開発経緯が詳しく聞けて良かった。2 時間というリッチな設定がとても良かった。

◎色覚、アプリ、絵画、IT、等々、色々な話が盛り沢山でとても楽しく聞くことが出来ました。色覚については、色弱の呼び方の表が出た時は、その言葉の並びを改めて見てみて、障害、異常、こういう言い方に強い不快感を覚えてしまいました。色弱の色が弱いという響きもありよい感じがしないので、せめて少数色覚とか何か他の呼び方はないのかな・・・、と考えながら聞いていました。ただ、将来的には色については全く困らなくなるだろうという予想を聞いて大変嬉しく思いました。

◎とても興味深く聞きました。

◎実際の開発秘話を聞いたのは勉強になった。

◎幅広いお話を聞けて良かったです。ありがとうございました。

◎「色のシミュレータ」が様々な方の色の見え方をシミュレーションできる仕組みが良く分かりました。チョークの色を検討する上でも活用していければと思います。

◎ふだん聞くことのできないお話をうかがえて、たいへん満足です。

◎よく理解できていない部分もあるが、詳しいお話を聞くことができとても有意義な時間となりました。実際アプリも使ってみたいと思います。

◎浅田さんのお話が大変面白く、色覚以外の事も多くあり、大変有意義でありました。

◎時間がたっぷりあったので、講師のことを充分に知ることが出来た

◎スケールの大きなお話で、志の高い方のお話が聞けて良かったです。色弱の方への無料提供、海外支援の

お話(コルクで作る絵、チャリティーコンサート)ベンチャー企業へのへの支援など活躍は多岐にわたり『一度やりたいと思った事は必ずやる!』という力強い言葉と信念に深く感銘を受けました。ご縁があってお話が聞けたことに心より感謝します。モネの白内障のお話も初めて聞き、興味深かったです。

◎講師の浅田一憲氏が色覚のマイノリティの方達に役立つツールを開発するに至る経緯や思い、(難しい理論はさておき)どんな技術で歩まれたのかを知ることができて大いに有意義でした。何かを創り出すには、1人の強い想いと周囲の方達との出会い、どれも欠けては成し得ませんね。私自身は現在障がいあるなしに関わらないアートセラピーを行っており、今後多様な色覚の方がともに自分を表現することを楽しめる場を作りたいと考えています。その点で今回のゴッホの絵の話はとても興味深かったです。みんなが遠慮せず、気後れせず色を楽しむ場、小さくても良いので試してみたいと思います。ありがとうございました。

◎大変勉強になりました。ありがとうございました。

◎まずは、「色のシミュレータ」など色覚についての数々の神アプリを開発いただいた浅田様に、色弱者の一人として、この場をお借りして大感謝を申し上げます。いつも利用させていただき本当にありがとうございます。

講演を聴いて感じたのは、浅田さんが幅広い分野で社会を変えるようなご活躍をされてきた中で、CUDに関しては色弱当事者でないにも関わらず栗田正樹さんの著書などをきっかけにアプリ開発されそれが世界中に広がりCUDの普及が更に進んできたのは、「CUD活動のバタフライエフェクト」的な物語を感じずにいられませんでした。

私たちは、一人でも多くの人にCUDを伝えることくらいしかできませんが、活動に勇気を与えてもらった気がします。

◎著名な絵画を例にした見え方の説明は関心が持てました。

以上
(2026/03/24)